

パンジー

————— 発病・加害時期  
 ════════ 発病・加害最盛期

作型・病虫害名		月												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
秋 冬	作								●	▲				
	作		■											
立 灰 根 ア ハ	枯 色 腐 ラ ム シ ニ	病 病 病 類 類	び											
			び											
			類											
			類											

立枯病

留意事項

1 QoI剤<<11>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 排水の良好な培土及び栽培管理をする。
- 育苗トレイやポットは、残根等がないように洗浄し消毒してから用いる。  
 (XIV農業用資材の消毒 参照)
- は種床、育苗用土には新しい土を使う。
- 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ **オーソサイド水和剤80** <M4>  
 【花き類・観葉植物(除ばら、りんどう、せんにちこう、コスモス、ひまわり、シネラリア、スイトピー、みやこわすれ、アンスリウム、斑入りアマドコロ) 600倍 発病前～発病初期/8回】
  - 5 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
    - ・ **ユニフォーム粒剤** <<11>><4>  
 【花き類・観葉植物(除きく、トルコギキョウ) 立枯病(リゾクトニア菌) 18kg/10a 土壌表面散布 定植時または生育期/3回】
    - ・ **リゾレックス水和剤** <14>  
 【花き類・観葉植物 500～1000倍 土壌かん注(3L/m<sup>2</sup>) 生育期/5回】

灰色かび病

留意事項

1 SDHI剤<<7>>、QoI剤<<11>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## 防除方法

- 1 施設栽培では、換気を行い湿度を下げる。
- 2 被害葉や咲き終わった花卉はほ場外に持ち出し処分する。
- 3 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [サンヨール](#) <—> 【500倍 開花前まで／8回】
  - ・ [セイビアーフロアブル20](#) <12>
    - 【花き類・観葉植物(除きんせんか、ホワイトレースフラワー) 1000倍  
発病前～発病初期／4回】
  - ・ [フルピカフロアブル](#) <9>
    - 【花き類・観葉植物(除ばら、スターチス、宿根かすみそう、ゆり、りんどう)  
2000～3000倍 発病初期／5回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アフエットフロアブル](#) <<7>>
    - 【花き類・観葉植物(除きく、ゆり、チューリップ、りんどう) 2000倍  
発病初期／3回】
  - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) <<11>>
    - 【花き類・観葉植物(除きく、トルコギキョウ) 3000倍 発病初期／5回】
  - ・ [ゲッター水和剤](#) <10><1>
    - 【花き類・観葉植物(除ひまわり、ゼラニウム) 1000倍 —／5回】
- 5 暖房機ダクトが設置されている施設では、ダクト内投入による処理法も有効である。(Ⅻ省力安全防除 2ダクト内投入 参照)

## 根腐病

### 防除方法

- 1 排水の良好な培土及び栽培管理をする。
- 2 育苗トレイやポットは、残根等がないように洗浄し消毒してから用いる。  
(XIV農業用資材の消毒 参照)
- 3 は種床、育苗用土には新しい土を使う。
- 4 被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 育苗期に下記の薬剤をかん注する。
  - ・ [ベンレート水和剤](#) <1>
    - 【2000倍 かん注(セルトレイ(60×30cm)1冊当り500mL) 育苗期／2回】

## アブラムシ類

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 2 ダントツ粒剤の成分クロチアニジンの総使用回数は4回以内。

防除方法

- 1 生育期に下記の薬剤を施用する。

- ・ [ダントツ粒剤](#) < 4 A >

【花き類・観葉植物(除きく) 6kg/10a 生育期株元散布 発生初期/4回】または  
 【花き類・観葉植物(除きく) 1~2g/株 生育期株元散布 発生初期/4回】

- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) < 4 A >

【花き類・観葉植物(除きく) 2000~3000倍 発生初期/5回】

- ・ [アディオン乳剤](#) < 3 A >

【花き類・観葉植物(除はぼたん) 2000~4000倍 発生初期/6回】

- ・ [コルト顆粒水和剤](#) < 9 B >

【花き類・観葉植物(除チューリップ、ばら) 4000倍 発生初期/4回】

- ・ [ジェイエース水溶剤](#) < 1 B >

【花き類・観葉植物(除ばら、きく) 1000倍 発生初期/5回】

ハダニ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 ナミハダニは薬剤抵抗性が生じており、効果の劣る薬剤も出てきているため、薬剤選択は特に注意する

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [バロックフロアブル](#) < 1 0 B > 【花き類・観葉植物 2000倍 発生初期/1回】

- ・ [ダニトロンフロアブル](#) < 2 1 A >

【花き類・観葉植物 1000~2000倍 発生初期/1回】

- ・ [ダニオーテフロアブル](#) < 3 3 > 【花き類・観葉植物 2000倍 発生初期/2回】

- ・ [カネマイトフロアブル](#) < 2 0 B >

【花き類・観葉植物(除ばら、きく、カーネーション、デルフィニウム)  
 1000倍 -/1回】

- ・ [コテツフロアブル](#) **劇** < 1 3 >

【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 2000倍 発生初期/2回】

- ・ [サンクリスタル乳剤](#) < - > 【花き類・観葉植物 600倍 -/-】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。